

平成31年 2月

山根昌史 学位論文審査要旨

主 査 汐 田 剛 史
副主査 藤 原 義 之
同 磯 本 一

主論文

Protective effects of ipragliflozin, a sodium-glucose cotransporter 2 inhibitor, on a non-alcoholic steatohepatitis mouse model

(非アルコール性脂肪肝炎マウスモデルに対するナトリウム-グルコース共輸送体2阻害薬、イプラグリフロジンの保護効果)

(著者：山根昌史、的野智光、岡野淳一、永原蘭、松木由佳子、岡本敏明、三好謙一、杉原誉明、永原天和、孝田雅彦、磯本 一)

平成31年 Yonago Acta Medica 掲載予定

参考論文

1. 非B非C非アルコール性の高齢肝硬変患者の特徴

(著者：大山賢治、松木由佳子、山根昌史、永原蘭、岡本敏明、三好謙一、的野智光、法正恵子、岡野淳一、磯本一)

平成30年 日本高齢消化器病学会誌 20巻 92頁～97頁

審 査 結 果 の 要 旨

近年ナトリウム-グルコース共輸送体2阻害薬は、非アルコール性脂肪肝炎の治療薬として期待されているが、本研究は、非アルコール性脂肪肝炎モデルであるFLS-*ob/ob*マウスを用いてナトリウム-グルコース共輸送体2阻害薬であるイプラグリフロジンの肝脂肪化及び肝線維化の抑制効果について検討したものである。その結果、イプラグリフロジンを12週間経口投与することにより、肝脂肪化及び肝線維化が抑制された。本研究は、ナトリウム-グルコース共輸送体2阻害薬が、非アルコール性脂肪肝炎における肝脂肪化及び肝線維化の治療薬としての有用性を示したものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。